

公立大学法人山口県立大学 附属 郷土文学資料センターだより

あらつち短歌会紹介

設立 昭和25年7月

河野 康子 (『あらつち』編集長)

月刊誌『あらつち』は昭和25年7月に岩松文彌先生によって創刊されました。

先生は明治31年12月18日山形県にて出生。国学院大学に入学後、歌人釈超空の門下の逸材として令名高く、卒業後群馬県立高崎中学校、福島県立喜多方中学校で教えながら『くぐひ』編集8年。昭和12年に山口県の長府高女に赴任。昭和21年4月、戦後の教育改革の中で、県立宇部中学教頭として宇部の地を踏まれ、神原中学校長、宇部市立高等学校長を歴任されました。

戦後の人心の乱れに心を傷め、20年から山口県の文芸誌『文芸風土』の選者として短歌初心者の育成にあたり、その寛容で恬淡率直な人柄が多くの人に慕われて、地方文化に多大に貢献せられました。同誌廃刊後、昭和25年7月に月刊誌『あらつち』の全国紙としての創刊を目論まれ「あらつち社」の形で発行が始まりましたが、昭和29年1月7日急逝。享年55歳の惜しまれる死でした。

先生亡き後、先生の指導薫陶を受けていた門下、教え子、有志一同やゆかりの人たちによって、歌誌『あらつち』の続刊が念願され、真締川湖畔に歌碑が建立され、岩松文彌歌集が刊行されました。あらつち社は萩市の竹内八郎氏が主宰となって萩市に移りましたが、先生ご逝去により昭和49年防府市の大田哀歌鳥主宰となりました。3年後の昭和52年大田主宰のご逝去により『あらつち』は一旦絶えかけましたが、吉武寛人氏のご尽力で、あらつち社は再び宇部の地に戻されました。吉武寛人主宰は、歌誌発行や、合同歌集の刊行、記念短歌大会開催などあらつちのために尽くされましたが、平成8年吉武久美子氏に主宰を譲られご逝去されました。

5代主宰の吉武久美子氏は平成21年10月まで発行所を自宅に置かれて、『あらつち』の発行と門下の短歌指導に尽くされていましたが、お身体の不調により、平成21年11月からあらつち発行所と事務局を河野康子宅に移されました。第63巻7号通巻682号の『あらつち』誌が昭和20年以来発行されています。

あらつち創刊のことば

岩松文彌

日本文学の中で、短歌ほどひろく愛唱され古い命を持っているものはない。夥しい作品とその作家群像は常に真なるものと新なるものへの希求を、いつの時代も捨てなかつたのである。従って短歌は日本文学の持てる、値を超えた珠玉である。近来短詩形否定の第二芸術論が、未熟な学者によってどのようにあげつらわれようと、伝統定形短歌の方向は厳として微動だもしないのである。

自然と人生に亘るあらゆる実相のなかで現代日本ほど、悲壮なものもあるまい。世界の歴史にもかつて見ないような敗戦のうめきが続き、同時に、心深くたくましい再建の希いがひそむ。私ども

は奇しくも、このような歴史的混乱と世代的悲願のさ中に身を処し、生を得たのである。これを思えばこれまで不滅のいのちを保持してきたこの伝統短詩形文学をもって、真に美なるものを発見し、新なるものを見出さなければならない。

あらつち訓 岩松文彌

あらつちを掘りおこし、あらつちを耕し

種子をおろし、芽ぐんだものを

すくすくと育てよう。

そして、ひそんでいる力をたたえ

あらつちにしっかりと足をつけて

明るくすこやかに生きよう。

あらつちは開墾しようとする人には

荒土である。

すでに開墾を終った人には新土となるであろう。

昭和二十五年七月創刊号より



やまぐちの文学を辿ろう！ —やまぐち文学回廊構想推進協議会の取組み—

玉木伸尚 (山口県文化振興課主任
やまぐち文学回廊構想推進協議会事務局員)

9月30日(日)、やまぐち文学回廊構想推進協議会が主催する「山口線沿線文学散歩」には、県内各地から、抽選で選ばれた20名の皆さんの参加があった。毎回、県立図書館と連携して行うこの文学散歩は、同館2階にある「ふるさと山口文学ギャラリー」の企画展の関連イベントとして実施している。

心配された台風も遠ざかり、雨も上がった湯田温泉の井上公園。種田山頭火や中原中也の文学碑を前に、参加者は、当協議会の福田百合子会長の解説に熱心に耳を傾ける。

今回は、井上公園を散策後、中原中也記念館を見学し、SLやまぐち号を利用して津和野の森鷗外記念館を訪ねる行程である。屋外では文学碑や土地の歴史に関する福田会長の解説、中原中也記念館では中原豊館長による特別企画展の解説を聴きながら、秋の一日、中也や鷗外の生き方を見つめ、作品に親しむ。

—去年は、下関。去年は岩国。そして今年は山口から津和野へ。県内どこを訪ねても、当協議会の会員でもある地元の文学関係団体の皆さんが、案内役や講師を担当してくださり、健康的で、知的な催しとして、毎回参加者の好評を博している。

やまぐち文学回廊構想推進協議会は、「やまぐち文学回廊構想」の推進主体として、平成9年に設立された。「やまぐち文学回廊構想」とは、県内に点在する多くの



▲ 山口線沿線文学散歩

近代文学資源を「文学回廊」としてネットワーク化することによって、地域文化の活性化を図る構想である。当協議会は、文学にゆかりのある県内8市、文学関係18団体、県を構成員として、県内外に向けた、山口の文学の魅力の発信に努めている。

当協議会では、「やまぐちの文学を辿る道」として、県内に五つの文学ルートを設定している。①「みずぐと日本海の文学を辿る道」、②「中也と山口線沿線の文学を辿る道」、③「漂泊の俳人山頭火を辿る道」、④「独歩と瀬戸内海の文学を辿る道」、⑤「関門海峡・響灘周辺の文学を辿る道」である。協議会の設立から今年で15年になるが、この間、山口ゆかりの文学に関する書籍の刊行、文学講演会や文学講座、文学回廊パネル展の開催など、各ルートの魅力を伝えるさまざまな取組みを実施してきた。



▲ 文学回廊パネル展



▲ 詩人・佐々木幹郎氏による講演

その中で印象深いのは、催しに参加してくださった皆さんの、旺盛な向学心である。新しい事柄を知る喜びと新鮮な感動を求めて、日頃からいろいろな文化的行事に参加されている行動派が多い。文学に親しみ、常に自分を高めようとする積極的な姿勢を前にすると、頭が下がるばかりでなく、より充実した内容の催しにしなければと、身の引き締まる思いがする。

山口の風土、歴史、伝統からは、多くの優れた文学者と魅力ある文学作品が生まれた。そのことを、本県の誇りとして県民の皆さんが共有できるように、今後

も山口ゆかりの文学との出会いの場を提供し続けていきたい。そして、県内の文学の道を辿ってみようと思われる方が、一人でも増えることを期待して止まない。

さて、当協議会が行う主な取組みの一つに、山口ゆかりの文学者の選定がある。

山口にゆかりのある明治期以降の文学者で、既に亡くなっている方を対象として、平成9年に「やまぐちの文学者63人」を選定し、平成18年にプロフィール集『やまぐちの文学者たち』を刊行した。

このたび、十数年ぶりに文学者の選定を実施し、これまでの63人の文学者に、幅広いジャンルからの新たな文学者を加えることになった。今年度中には『やまぐちの文学者たち[増補版]』を刊行し、県内の学校や図書館に配付するとともに、県のホームページ等でも紹介する予定である。ぜひ楽しみにしていただきたい。

※「やまぐちの文学を辿る道」の詳細は、県文化振興課のホームページ、または当協議会監修の『やまぐちの文学を辿る道』（県庁1階の県刊行物センターで840円で販売中）に掲載しています。

【「嘉村礒多の文学世界」展を開催しました!】

山口県立大学3号館の1階で2012年7月2日から8月31日まで、「嘉村礒多の文学世界」を展示致しました。この展示は、2012年2月、山口市民会館小ホールで行われた文化創造学科展に、学科の展開科目「地域実習」の活動成果として発表したものをオープンキャンパス等に合わせて、学内公開したものです。今後とも郷土文学資料センターでは、学内・学外を問わず、積極的に郷土文学資料の展示を進めていきたいと考えています。



【報告】平成24年度の山口県立大学公開講座「やまぐちの文学」は、好評のうちに終了しました。

会場：山陽小野田市立図書館 時間：13：30～15：00 受講料：無料

回数	日時	テーマおよび講座内容	講師
1	5.26 (土)	詩人中原中とその青春 一父謙助をめぐって	山口県立大学名誉教授 福田百合子
2	6. 2 (土)	嘉村磯多とやまぐち	当センター研究員 加藤 禎行
3	6. 9 (土)	江戸時代の小説に描かれた大内氏	当センター研究員 木越 俊介
4	6.16 (土)	鷺流狂言の世界	当センター所長 稲田 秀雄

寄贈図書 (2012年5月～2012年10月)

小島寿美子『詩集 ふるさとは蒼く潔かったのだ』(土曜美術社出版販売、2007)・小島寿美子『詩集 光りをすくう』(小島寿美子、1999)・渡辺マチ子『句集 こゑにして』(文學の森、2008)・清川妙『91歳の人生塾』(小学館、2012)・其桃発行所『其桃創刊八十周年記念「桃影」第十一輯』(其桃発行所、2012)

寄贈雑誌 (2012年5月～2012年10月)

『嘉村磯多顕彰会だより』第2,3号(嘉村磯多顕彰会)・『其桃』第810～814号(其桃発行所)・『文芸山口』第303～305号(山口県文芸懇話会)・『山彦』VOL.110～112(山彦俳句会)・『地橙孫新聞』第8～号(兼崎地橙孫顕彰会)・『ふるさと紀行』平成24年夏の号・秋の号(第130～131号)(ふるさと紀行編集部)・『あらつち』第63巻5,7,9号(通巻681～683号)(あらつち社)・『大内文化探訪』(創立三十周年記念会誌30号)、『逸史 大内氏家紋』(創立三十周年記念)(大内文化探訪会)・『颯』第90号(颯事務局)・『風響樹』VOL.42(風響樹同人)・『句集 檀』(たむらのぶゆき)・『やまなみ』第29号(やまなみの会)

編集後記

▼センターだより20号をお届けします。▼巻頭には、『あらつち』編集長の河野康子氏に、あらつち短歌会の来し方と、「創刊のことば」をお寄せいただきました。今でこそ、宇部からの発信という印象が強いですが、萩や防府をも拠点とされていたことなど、興味深い歴史を知ることができました。心よりお礼を申し上げます。▼山口県文化振興課の玉木伸尚氏には、県が力を注ぐやまぐち文学回廊構想推進協議会の取組みについて、具体的にご報告していただきました。県民のニーズに応えながら、様々な企画立案のみならず、それらを一つ一つ実践されていることに改めて敬意を表するとともに、やはり参加者からお力をいただいている様子が手にとるように伝わって参りました。▼今号をもちまして、センターだよりは20号に到達いたしました。年2回の地道な発行ながら、一步一步進んで参りました。当センターはスタッフ4名と小さな組織ですが、県下の文学と県民のみなさまをつなぐ場となるよう日々努力しております。改めてよろしくお願ひ申し上げます。▼次号は、寺内文庫や鷺流狂言についての記事を掲載する予定です。ご期待ください。(K)



■編集発行：公立大学法人山口県立大学附属郷土文学資料センター (〒753-8502 山口市桜島3-2-1)
TEL. (083) 928-0211 FAX. (083) 928-2251
■発行日：2012(平成24)年11月30日